

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・この1年の動きから、今後の景気は良くなる。景気は気からといわれるが、旅行意欲が高まっているなか、春を迎えて暖かくなることで、旅行客が増えることを期待している。
	◎	観光名所（従業員）	・当地に新規就航した国際定期便が安定運航していること、豪華客船の寄港が前年以上になる見込みであることから、これまで以上にぎわいが期待できる。外国人観光客の購買力はとても力強いため、波及効果にも期待できる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の5類移行から約1年が経過することになるため、管外及び道外からの入込客が増加することになる。区域住民の消費行動は現在と同程度で推移するとみられるものの、入込客の増加に伴う売上アップが期待できる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・観光地ということもあって景気は上向きであり、今後も観光客が増加することが見込まれることから、景気はやや良くなる。ただし、地域全体としては、物価上昇や人手不足の影響もあって、活気がみられない。客からは、給料アップは期待薄であり、日経平均株価の最高値更新もどこの国の話なのかという声が聞こえてくる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・観光客の入込が好調に推移しており、今後、一層の増加が期待できることから、景気はやや良くなる。
	○	スーパー（店長）	・学校行事関連商材の出足が良いことから、今後、春の新生活に向けて需要が高まることを期待している。
	○	スーパー（店長）	・春を迎えて、客の移動範囲が広まり、それに伴って商圈も広がる。来客数の増加が見込めるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・天候の影響もあって、冬物商材は大きく低迷したが、春物商材、特に新生活関連商材の動きが好調なことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	家電量販店（経営者）	・エアコンなどの空調機器の销售量増加を今後も引き続き期待できることから、景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・今年は例年よりも雪解けが早くなりそうなことから、春先需要も例年よりも早く始まることになる。新型車効果も多少は期待できるため、受注量が伸びることになる。そのため、今後の景気は上向きことになる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・全体的に景気が良くなっていることから、販売施策の推進方法を見直すことで業績が改善すると期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・例年よりも雪解けが早く進むことで、桜などの花観光がゴールデンウィーク前から動き出すことが見込まれる。また、半導体工場の工事がこれから本格化することで、初夏から夏場にかけてビジネス需要が伸びることも期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	・コロナ禍が長く続いていたことから、コロナ禍での買い控えの反動やリベンジ消費などは一過性のもではなく、次年度以降も継続するとみられる。また、春闘において、各産業でベースアップなどがみられることから、物価上昇に連動して景気も上向きことを期待している。
	○	タクシー運転手	・日中の利用客が少しずつ増えている。春のイベント関連での来客にも期待できることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・インバウンド需要が伸びていることから、今後にも期待している。
○	住宅販売会社（経営者）	・日経平均株価が史上最高値を更新していることから、消費意欲が刺激されることを期待している。それに伴って、建売住宅の在庫も減り、景気が上向きことになる。	
□	商店街（代表者）	・国内の景気については、株価の動きが良いものの、期待しているような売上とはなっていないことから、景気の悪い状態であり、今後も良くなるとは考え難い。ウクライナ情勢の解決にまだ時間が掛かるとみられることもマイナスである。	

<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・外国人観光客は好調を維持していることから、今後も景気は変わらない。ただし、冬のイベント期間中にホテルが大幅な単価上昇を設定したことで、国内観光客が大幅に減少したことが気掛かりである。現状、高単価を負担できるのは円安効果のある外国人観光客が中心であり、今後のことを考えると、行き過ぎた高単価は将来に不安を残すことになる。
<input type="checkbox"/>	一般小売店（経営者）	・株価が上昇していることで恩恵を受ける可能性もあるが、一時的な影響と考えられるため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（売場主任）	・国内客の消費にプラスとなるような要因が余りないため、景気は横ばいで推移することになる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・今後も一般消費者の購買意欲はなかなか上向いてこないとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・足元の動きとして、客の節約志向が変わっておらず、より価格の安い店舗を買い回る動きがみられる。今後もこうした傾向は変わらないとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・人件費や物流コストの上昇に伴う、商品単価の上昇は避けられないため、今後3か月は来客数、客単価が同様の傾向で推移することになる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・アフターコロナのなか、旅行者が増加しているが、現在の経済状況を考えると、インバウンドを除いた旅行者が前年から大きく増加するとは考え難い。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・商品の価格が上がっている割に客単価が伸びていない状況から、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・物価高やその原因となっている円安に対して効果的な対策が行われない限り、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・今の客層の仕事着への購買意欲が高まるまで、まだ時間が掛かることになる。株価は上昇しているものの、景気が回復している実感はなく、危機感ばかりが先行している状況にある。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・今後も引き続きエアコンの売上増加が見込まれる。ただし、それがいつまで続くかは分からない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの不正問題が解決しない限り、自動車業界は厳しい経営状態が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・株価が上昇しているが、その恩恵を受ける人は僅かである。物価上昇が続くなか、多くの人は実質賃金が上がっていないことから、消費行動を抑制する動きは今後も続くことになる。景気は悪い意味で変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・大手自動車メーカーの不正問題の影響で、市場に対する印象が悪くなっている。その印象が消えるまで、景気が良い方向に転じることはないとみられる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後も客の消費動向の回復は厳しいとみられる。不良在庫が経営を圧迫する前に、適正在庫となるよう見直しを行うことが先決である。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・今後の景気は、燃料油価格激変緩和対策事業の動向により変化することになる。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・今後も景気は変わらない。外食の割高感が拭えず、料理内容をサービスしても、その良さが伝わりにくく、来客数増加につながらない。夕方のテレビ番組ではコストパフォーマンスの高い店や格安ランチなどを紹介しているが、当店は到底かなわない。日経平均株価が最高値を記録したが、当店の客層や売上に影響は全く生じていない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・商品の値上げに加えて、光熱費の高騰などもあって、消費マインドが上向いてこない。来客数も鈍化傾向にある。コロナ禍が一段落したとはいえ、今後も売上の伸びない状況が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・ホテルや交通などにおいて、オーバーツーリズムによる需要過多が危惧されることから、内需は今後も変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・例年タクシー利用は雪のある3月までは多いが、暖くなる4月以降は急減することになる。ただし、前年末より若い世代の新規ドライバーの採用が増えていることから、今後も2月並みの前年比プラス20%の売上が続くことを期待している。

□	タクシー運転手	・人手不足による稼働率の低下が改善しない限り、景気の上昇局面は見込めない。
□	タクシー運転手	・コロナ禍以前と同程度の利用者に回復するまで、しばらく時間が掛かることになる。夏場に向けて、観光客などが増えてくるとみられるが、どの程度まで回復するか分からない。
□	観光名所（職員）	・社会情勢が停滞しており、景気に変化するような要素もないため、今後の景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	・季節要因による多少の売上増加はあるとしても、前年を大きく上回るような売上は期待できない。そのような要因も見当たらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンションの価格上昇に客の所得増加が追い付いていないことから、分譲マンション市場は停滞気味である。この春の賃上げで客の所得がどれだけ伸びるのかを期待しているところである。
□	住宅販売会社（従業員）	・高額物件については比較的客の反応が良いが、一般価格帯の物件については客の動きが鈍い。
▲	商店街（代表者）	・物価高を上回るような賃金上昇が行われない限り、景気が上向くことにはならない。
▲	スーパー（店長）	・支出が増えているため、生活費、特に食費を抑えようとする客が多い。価格の安い店を選ぶ客も増えていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・今後、個人の収入がどの程度増えるかにもよるが、節約志向は続くと思われる。
▲	スーパー（企画担当）	・値上げする商品の点数が減少傾向にあり、値上げ幅も小さく、値上げまでのスピードも長くなっているものの、物価の上昇に賃金の上昇が追い付いていない。実質賃金がマイナスになっていると連日報道されていることもあって、消費の先行きは、賃上げが地方にも及ぶかどうか大きな要素になるとみられる。
▲	スーパー（役員）	・物流の2024年問題の影響で運賃が値上げラッシュとなっていることから、これからも商品の値上げが続くことになる。今後、消費者の節約志向はますます強まることになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが続いているなか、今後、小売店では店舗ごとに販売促進策を行うようになると思われる。そのため、店舗の利益が減ることが懸念される。
▲	コンビニ（エリア担当）	・コロナ禍が明けたにもかかわらず、来客数が前年を下回る状況が続いている。来客数が増えないと売上が回復してこないため、現状からは売上が回復する見込みがない。
▲	乗用車販売店（従業員）	・今年度の新車登録台数が大きく減少することが見込まれ、期末ボーナスも見込めない状況にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・これまでは納車遅れの解消が進むことで、受注残が売上確保につながっていたが、受注残がなくなっている。ここ数か月、新車受注が低調だったことから、この先の売上が見通せなくなっている。
▲	その他専門店 [造花]（店長）	・現状、景気が良くなるような要因が特に見当たらない。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	・今後については、予約数が伸び悩んでいる。例年、人の移動が増える時期ではあるが、ゴールデンウィークまでは苦戦が見込まれる。
▲	旅行代理店（従業員）	・円安やそれに伴う海外旅行の費用上昇、燃油サーチャージの高騰は今後も変わらないとみられる。当地における給与上昇も期待できないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	タクシー運転手	・日経平均株価が最高値を更新したが、実態を伴っていないため、消費も上向いていない。消費行動に支えられるタクシー業界においては、今後も厳しさが続くことになる。
▲	通信会社（企画担当）	・若年層への販売で競合他社に負けており、春商戦において、それをばん回するような施策も準備できていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	美容室（経営者）	・必要な物とそうではない物について、客の選別がかなり厳しくなっている。関連商品の需要をスーパーやディスカウント店に奪われている傾向もみられることから、今後の景気はやや悪くなる。

	×	観光型ホテル（経営者）	・3月以降の集客にかなり苦戦している。今年は全国旅行支援のような需要喚起策もないため、先々の予約状況は厳しい状況となる。
	×	美容室（経営者）	・景気が良くなるような兆しが全く感じられない。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	建設業（経営者）	・今後については、新規受注案件の着工が順次始まり、稼働量が増えてくることになる。秋口までは人手や機械の手配にも制約が少ないため、出来高も見込める。街中の景気はコロナ禍前の状態に戻っており、これから賃上げの効果が徐々に出てくることにも期待している。ただし、建設業界において、半導体製造工場の進出により、どの程度の影響が生じるのか分からないことは気掛かりである。
	○	建設業（役員）	・公共土木工事については、新年度分の入札が続いており、新規受注につながっている。次年度繰越しの民間建築工事や北海道新幹線関連の工事もある。新年度前半はフル稼働状態が見込める。
	○	輸送業（支店長）	・輸出入貨物については、円安や中国の日本産水産物輸入禁止措置の影響もあって、明るい話がまだ出てきていないことから、今後も変わらないまま推移する。一方、国内移出入貨物については、春需要で動きが活発になることが見込まれる。これらのことから、今後の景気は現況よりは良くなる。
	○	通信業（営業担当）	・生活必需品の値上げが進行しているなか、周辺企業からは、今春の賃上げに前向きな話を聞くことが多い。そのため、春以降、個人消費について、購買意欲の上昇と購買額の増加が期待できる。
	○	広告代理店（従業員）	・株価の上昇、企業業績の向上、設備投資の増加、賃金の上昇といった経済の循環がみられるようになっている。ようやく消費拡大につながるような傾向が出てきたことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・不動産の売買や新築物件に関する引き合いが増えていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・次年度の受注単価について、これまでよりも高い値上げ幅で契約できたことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・道央圏を中心に再開発事業が引き続き活発なことから、今後の景気はやや良くなる。海外直行便の再開などで、インバウンドの伸びが続くとみられることもプラスである。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・前年後半の実質GDPがやや落ち込むなど、留意すべき点もあるものの、国内全体的に建設投資が堅調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	農林水産業（経営者）	・果物の凶作の影響が今後も続くことになる。
	□	食料品製造業（従業員）	・新規販路開拓や販売方法の見直しについて検討を続けているが、3か月後に状況が劇的に変わることは考え難いため、今後も景気は変わらない。
	□	金属製品製造業（従業員）	・住宅着工戸数が増えるような要素がないため、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	・今後、半導体関連など、国策による案件が増えると思込めるため、予定どおりに着工できない案件が増えることが考えられる。ただし、実際に影響が出てくるのは来年度後半から再来年度とみられるため、今後数か月は影響が小さいものとみられる。
	▲	食料品製造業（従業員）	・価格改定を実施しているため、今後の受注量が減ることが見込まれる。
	▲	金融業（従業員）	・賃上げによる人件費の増加や人手不足、燃料油価格激変緩和対策事業の終了によるコスト増加に加えて、物流の2024年問題が追い打ちとなり、企業収益の減少に拍車が掛かることが懸念される。
▲	司法書士	・収入が増えたとしても、税負担が重くなるばかりであり、こうした状況が改善されない限り、景気が上向くことはない。また、地方都市においては、人口減少に伴う経済の衰退も進行している。	
▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・大型工事案件について、軒並み延期や見送り、縮小といった動きがみられる。このため、しばらくは少ない案件の取り合いとなり、仕事のある会社とそうでない会社の2極化が進むことになる。	

	×	—	—
雇用 関連	◎	—	—
	○	*	*
(北海道)		人材派遣会社（社員）	・国内景気の改善ムードが企業経営者に刺激を与えていることから、求人数は今後も増加傾向で推移する。人材をなかなか採用できない企業は、給与の条件を見直したり、採用判断となるスキルを引き下げるなどして、人材獲得に向けて動くことになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・食品などの物価上昇に対して、給与や収入の増加が追い付いていない状況にある。今後、中小企業においては、人件費の上昇圧力が懸念されることもあって、求人控えたり、様子見する動きが強まることになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・株価の上昇やインバウンド需要の拡大などの明るい動きがみられるものの、まだ肌感覚として実感がないのが現状である。今後の景気が上向くかどうかは、中小企業の賃上げ状況に左右されることになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高の状況が変わらない限り、景気が良くなることはない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・客先から話を聞いても、景気が上向くような気配が余り感じられない。
	□	職業安定所（職員）	・様々な商材の価格高騰に、実質賃金の伸びが追い付いていないため、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・求職者数が増加傾向にあるものの、新規求職者数はほとんど変わっていない。求人については、安定的に求人を公開している業況堅調な事業所もあれば、人手不足を感じながらも価格高騰などによる事業環境の悪化を懸念して求人を控えている事業所もみられる。求人数は減少しているが、それが必ずしも景気の悪化と結び付いているとはいえない状況にある。
	□	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は10か月連続で前年を下回っているもの、業種によってその度合いは異なっている。ただし、今後の物価上昇の動向、経済活動、消費行動の状況によっては、先を見通せない状態となることも懸念される。
	▲	—	—
	×	*	*